

# Happy New Year!

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

## 秋の講演会

平成19年11月4日、宍戸和成先生（文部科学省 視学官）をお迎えして秋の講演会が行われました。

11月初旬にしては肌寒い日でしたが、当日参加も含め90名以上の先生方に会場は寒さを忘れそうでした。宍戸先生の熱い講演に参加者の先生方からいろいろな感想、ご意見をいただきましたので、ご紹介します。



## 参加者の感想

初めに「特殊教育」から「特別支援教育」への移行の背景が教育以外の分野も含めて話してくださり改めてよくわかりました。日々、担任としてどっぷり子どもたちと格闘の日々を送る私にとっては、宍戸先生が「特別支援教育のキャッチフレーズに酔うことなく、今までしてきたこと、今、聾学校の現場での実践を生かして欲しい」とおっしゃった言葉に、毎日の大切さを感じることができました。そして聾学校をどのような学校にしたいかを国任せ、県任せにするのではなく、子どもたちの一番近くにいる者として、しっかりと考えていくことの必要性も感じました。

次に言語力の問題はとても面白く聞かせて頂きました。聞きながら私のクラス(4歳児)の女の子と交わした会話を思い出しました。

母「秋やねえ」

子「秋って何？」

「夏」と「冬」は言葉をきくだけで色々なイメージを持つ子だったので、「夏から冬の間で、毎日、暑かったのがだんだん涼しくなり、寒くなる、この間を秋っていうよ」と説明しました。その時は「ふーん」と聞いていたのですが、その後、絵本で秋になると紅葉することを知り、実際学校の桜の木の葉が茶色や赤に色付く様子を見て、「秋だからねえ」と言ったり、半袖から長袖になった私を見て、「秋だから？」とたずねたり、日差しがきつくとっても暑い日には、「秋なのに暑い！」と言ったこともありました。「秋って、朝と夜が寒くて、昼間が暑い時もあるよ」と説明すると、朝、お母さんが「風邪をひいたら困るから長袖を着なさい」と言った意味がわかったようです。

講演の中で宍戸先生が「言葉として覚えるだけではなく、体験を通じて、年齢に応じた生活や経験の中でイメージを広げながら、知識・技能を実際に活用して考える力を育成することが大切です」とおっしゃった時に、この会話を思い出して深く共感することができました。

また宍戸先生は言語力を「自らの考えを深め、他者とのコミュニケーションを行うために言語を運用するのに必要な能力を意味するものとする」ともおっしゃいました。言語力の育成は聾学校の専門中の専門ですが、本当に日々頭を抱えてしまいます。でも日々の実践を大切に、これからも格闘していこうという思いになりました。

最後に宍戸先生は「実践には苦しさもあるが面白さもありますよ」とおっしゃいました。

私自身「本当にその通り！こりゃやめられん！」と明日、子どもたちに会うのが楽しみになりました。  
(大阪府 聾学校教員)



特別支援教育の施行にあたり、今後の聾学校が果たすべきセンター的な役割や言語力育成の必要性などについて、パワーポイントを使って具体的で分かりやすいお話でしたので、最後まで熱心に聞かせていただきました。

(京都府 聾学校教員)

宍戸先生の講演を興味深く聴かせていただきました。特別支援教育は特殊教育の発展形であるべき、というご説明は全くその通りだと思います。ただ、その“発展”の部分は何なのかは、なかなかとらえにくい面があります。発達障害児の教育にばかり注目が集まる中で、聾教育で大事にすべきことは基本的には変わらない、というお話でしたが、特別支援教育になったからこそ見えてきた聾教育の新たな側面もあると考えます。特別支援教育の新たな知見を積極的に取り込むことで聾教育がさらに発展していく、という方向を目指したい、と改めて感じました。  
(奈良県 聾学校教員)

文部科学省の宍戸和成先生より、「なぜ今特別支援教育なのか」「どう特別支援教育を発展させていくのか」ということを社会情勢も交えて話していただきました。実践も交えながらの言語力育成向上に向けてのお話は、とても興味深く解りやすかったです。将来を託す子どもたちを支援していく教育者の立場としての重みをずっしりと感じた講演内容でした。(兵庫県 聾学校教員)

特別支援教育が始まるに当たっての経過や今後に向けての方向性がよく理解できました。軽度、中等度の難聴児にも今まで以上に深く関わり、本人・周囲の理解を得ることの困難さは、発達障害の理解が困難な部分とつながるところもあるように思います。今後、地域が独自性を持って推し進めて行くためには全国的に見ても地域差は大きく、ますます格差が生じるのではと危惧する保護者もいます。特別支援教育になったことで聾学校の役割をしっかりと見据え、今後も実践を重ね、よりよく変わっていく聾学校であり続けることが必要だと痛感しました。

(和歌山県 聾学校教員)

## 今後の活動計画

平成20年 1月22日(火) 第3回代表委員会および専門研修会(大阪市立聾学校)  
2月11日(月・祝) 冬の学習会(大阪市立中央青年センター)

『高等教育機関に学ぶ聴覚障害者の現状とその支援』

白澤 麻弓先生(筑波技術大学 准教授) 他

今年度の冬の学習会は日本教育オーディオロジー研究会上級講座(2月9~11日)に協力し、公開講座として共催します。詳細は別途、冬の学習会案内をご覧ください。



3月中旬

集録の発行・機関紙23号発行

近畿教育オーディオロジー  
研究協議会事務局

〒639-1122

奈良県大和郡山市丹後庄町456

奈良県立ろう学校内

事務局長 中井 弘征

TEL: 0743-56-2921

FAX: 0743-56-8833

メール: h-nakai@indigo.plala.or.jp